

2025～	地域福祉研究	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	大石 剛史	

■授業のテーマ

地域福祉の歴史と理論を踏まえたうえで、現在進められている地域共生社会の実現の意義と、実践現場で用いられるコミュニティソーシャルワークなどの方法論について学ぶ

■授業の目的

- ・地域福祉が求められてきた歴史的背景を理解し、現代社会における地域福祉の意義と、それらをふまえたこれからの地域福祉のあり方を考察する。
- ・現代の地域福祉の課題と、それを支える諸制度、方法論等を踏まえたうえで、地域福祉の具体的な実践方法について理解する。

■授業の到達目標

1. 地域福祉の意義と必要性について歴史的背景や現代の課題などを理解し、考察できる。
2. 地域福祉に関係する法制度、組織・機関の役割、援助技術について理解し、説明できる。
3. 地域福祉を進めていく際の行財政の仕組み、実施体制等について理解し、説明できる。
4. 地域福祉を実践する方法論を理解し、地域福祉課題に合わせた地域福祉実践の方法を考察できる。
5. 地域共生社会の意義に基づいて、それを実現するための制度、多職種連携による支援のあり方、住民主体のまちづくり、それらのガバナンスの方法を理解し、地域性に合わせた施策のあり方を考察できる。

■授業の概要

地域福祉は、社会福祉の理念や課題の変化と共に、歴史的により重視されてきた概念・分野である。人々の生活の場である地域社会で、人々が様々な人と関わり、助け合いながら暮らすことは、人間の豊かな生活にとって重要なことである。一方で現代社会は、地域の関係性の希薄化が進み、社会的孤立の課題が増大している。その中で多様な生活困窮の課題が顕在化し、それに対してどのような支援や新たな地域づくりを行うかという、地域共生社会づくりの課題が浮上している。本科目では、このような現状に対し、地域福祉がこれまでどのような背景で求められてきたかを理解し、検討されてきた地域福祉の理念・理論・方法論を踏まえつつ、これからの地域福祉を進める施策・支援のあり方、地域共生社会づくりのあり方を考察する。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	現代の地域福祉の課題（引きこもり支援、社会的孤立等）を1つテーマとして設定し、それらの課題に対し、現在どのような施策や支援が行われているか、その効果は出ているか、課題は何か等、具体的な事例等を示しつつ具体的に論述しなさい。	【提出期限】 <input checked="" type="checkbox"/> 対面授業1週間前まで <input type="checkbox"/> 対面授業前日まで <input type="checkbox"/> その他 (対面授業当日まで)
課題 2 (事後課題)	コミュニティ・ソーシャルワークの実践による包括的な支援のあり方について、自地域の地域福祉実践の事例、または自身が関わった支援事例を題材に、ミクロ、メゾ、マクロレベルでの実践の展開を意識して、その一連の支援の展開過程のあり方を述べなさい。	【提出期限】 <input type="checkbox"/> 対面授業後1ヶ月以内 <input checked="" type="checkbox"/> 受講年度の最終レポート受付日まで <input type="checkbox"/> その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

- ・まずそれぞれの地域福祉課題の現状等を既存データ等を使って正確に把握しましょう。
- ・次にそれらの地域福祉課題がどのような背景により発生しているかを論理的に論述しましょう。
- ・それぞれの課題に対して行われている具体的な支援事例を調べ、その支援が何を目的に（どのような効果を狙って）実施されているか、実際にどのような効果をあげているか、課題があるとすれば何かをそれぞれ論理的に論述しましょう。

課題2 アドバイス

- ・自身の暮らす（勤める）自治体の地域福祉実践事例について、資料等を調べて把握しましょう。または、自身の関わった実践事例について振り返りを行いましょう。
- ・講義で学んだコミュニティ・ソーシャルワークのミクロ-メゾ-マクロにまたがる展開過程を復習しましょう。それをふまえて、自地域や自身の事例をコミュニティ・ソーシャルワークの展開過程に合わせて分析し、その展開過程を考察して論理的に論述しましょう。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	地域福祉の歴史①	イギリスにおける地域福祉の萌芽	地域福祉の歴史として、イギリスでの萌芽期の取り組みを理解する
2	地域福祉の歴史②	コミュニティ・オーガニゼーションの歴史	アメリカを中心に発展したコミュニティ・オーガニゼーション理論を理解する
3	地域福祉の歴史③	イギリスのコミュニティケア改革	戦後イギリスのコミュニティケア改革を理解する
4	地域福祉の歴史④	日本の地域福祉の歴史① 戦前～1980年代まで	英・米から影響を受けた戦前～1980年代までの日本の地域福祉の歴史を理解する
5	地域福祉の歴史⑤	日本の地域福祉の歴史② 1990年代～現代まで	1990年代～現代までの日本の地域福祉の歴史的展開を理解する
6	地域福祉の現状と課題	地域包括ケアシステムから地域共生社会へ	地域福祉の現状を踏まえ、地域包括ケアシステム、地域共生社会の意義を理解する
7	地域福祉の理論と方法①	日本の地域福祉の理論	岡村重夫、右田紀久恵、三浦文夫、永田幹夫、大橋謙策などの地域福祉理論を理解する
8	地域福祉の理論と方法②	コミュニティ・ソーシャルワークの理論と方法	地域福祉の包括的方法論として発展したコミュニティ・ソーシャルワークを理解する
9	地域福祉の理論と方法③	住民主体の地域福祉と福祉教育	住民主体の地域福祉の意義と、主体形成を図る福祉教育の理論と方法を理解する
10	地域福祉の理論と方法④	地域福祉計画の意義と策定手法	地域福祉計画の意義とその策定方法について理解する
11	地域福祉の理論と方法⑤	社会資源開発の理論と方法	社会資源開発に関する理論や方法を学ぶ
12	地域福祉の具体的実践過程①	社会的孤立・引きこもり支援における地域福祉実践	社会的孤立・引きこもり支援における地域福祉実践過程を理解する
13	地域福祉の具体的実践過程②	多文化共生ソーシャルワークと地域福祉実践	在留外国人等を支援するための地域福祉実践過程を理解する
14	地域福祉の具体的実践過程③	災害ソーシャルワークと地域福祉実践	災害時及び災害に備えた地域福祉実践過程を理解する

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
15	まとめ～地域共生社会を目指して～	地域共生社会の実現とケアリングコミュニティ	地域共生社会を実現するためのケアリングコミュニティの理論を理解する

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題 (学修時間目安：35時間)

レポート課題「現代の地域福祉の課題(引きこもり支援、社会的孤立等)を1つテーマとして設定し、それらの課題に対し、現在どのような施策や支援が行われているか、その効果は出ているか、課題は何か等、具体的な事例等を示しつつ具体的に論述しなさい。(4,000字程度)

- ・まず、地域福祉の課題について、指定テキストや既存の統計データを調べ、正しい知識を得ること。(10時間)
- ・その後、自身の設定した地域福祉課題に対して現状どのような取り組みが行われているか、テキスト、インターネット等を活用した論文等の検索を通して調べ、その現状と課題を把握すること。(15時間)
- ・それらを踏まえ、地域福祉課題に対する取り組みの現状と課題について論理的に論述すること。(10時間)

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	地域福祉の歴史①イギリスにおける地域福祉の萌芽	オンデマンド
2	地域福祉の歴史②コミュニティ・オーガニゼーションの歴史	オンデマンド
3	地域福祉の歴史③イギリスのコミュニティケア改革	オンデマンド
4	日本の地域福祉の歴史①戦前～1980年代まで	オンデマンド
5	日本の地域福祉の歴史②1990年代～現代(地域共生社会)まで	オンデマンド
6	地域福祉の理論と方法①地域福祉理論とコミュニティ・ソーシャルワーク	オンデマンド
7	地域福祉の理論と方法②福祉教育と地域福祉計画、社会資源開発	対面
8	地域福祉の具体的実践過程①社会的孤立、ひきこもり支援	対面
9	地域福祉の具体的実践過程②多文化共生、災害ソーシャルワーク	対面
10	地域福祉研究まとめ 地域共生社会の実現とケアリングコミュニティ	対面

(3) スクーリング事後課題 (学修時間目安：35時間)

レポート課題「コミュニティ・ソーシャルワークの実践による包括的な支援のあり方について、自地域の地域福祉実践の事例、または自身が関わった支援事例を題材に、ミクロ、メゾ、マクロレベルでの実践の展開を意識して、その一連の支援の展開過程のあり方を述べなさい。」(4,000字程度)

- ・まず自身の暮らす(勤める)自治体の地域福祉実践事例について、資料等を調べて把握する。または、自身の関わった実践事例について振り返りを行う。(10時間)
- ・次に講義で学んだコミュニティ・ソーシャルワークのミクロ-メゾ-マクロにまたがる展開過程を復習しする。それをふまえて、自地域や自身の事例をコミュニティ・ソーシャルワークの展開過程に合わせて分析する。(10時間)
- ・上記の分析に基づき、自分が考えるコミュニティ・ソーシャルワークの展開過程を事例にそくして考察して論理的に論述する。(15時間)

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート(25%)、課題2レポート(25%)
- ・スクーリング(50%)

(特に課題レポートは正確な知識を踏まえた上での、自身独自の論述が出来ているかどうかの評価の重要な指標となる)

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- * 1) 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『地域福祉と包括的支援体制（最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座）』中央法規、2021年
- 2) 公益社団法人日本社会福祉士会 『地域共生社会に向けたソーシャルワーク：社会福祉士による実践事例から』中央法規、2018年
- 3) 日本地域福祉研究所（監修）、中島修、菱沼幹男（編集）『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』中央法規、2016年
- 4) 山崎亮著 『コミュニティデザインの源流 イギリス篇』太田出版、2016年
- 5) 大石剛史著 『ケアリングコミュニティの理論：社会福祉の新しい地平を拓く地域福祉のメタ理論』学文社、2024年